

05夏山山行報告

南アルプス

甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳 山行

(7/30~8/1 L:山本 SL:山内 参加者 石橋、船津、渡邊 5名)

1日目	コース	運動公園 ⇒ 恵那北 I / C 仙流荘 P ⇒ 北沢峠 ⇒ 仙水小屋着 (泊)						
	時間	5:15 発	10:30 通過	11:30 着	12:45 発	13:30 着	13:40 発	14:25 着
2日目	コース	仙水小屋～ 駒津峠 ～ 甲斐駒ヶ岳・山頂～ 北沢峠 ～ 仙丈・馬の背フユッテ (泊)						
	時間	4:30 発	10分 休	8:50 着	9:05 発	13:20 着	13:30 発	16:40 着
3日目	コース	馬の背フユッテ 仙丈ヶ岳・山頂 ～ 北沢峠 ～ 仙流荘 P ～ 運動公園						
	時間	5:40 発	6:40 着	7:00 発	10:30 着	11:10 発	12:00 着	13:00 発 20:25 着

【8/1 甲斐駒ヶ岳編】 渡邊

参加メンバー5名は乗用車で出発。仙流荘駐車場からバスで登山口の北沢峠に着いたあと少し歩き、仙水小屋に14時25分到着。仙水小屋は完全予約制で宿泊人数も少なめに抑えており一人で布団一枚分のスペースが使い、ゆったり出来た。お膳仕立ての夕食を屋外のベンチで頂く。水洗式トイレは自家発電の光があり、ヘッドランプ不要と期待以上の内容で又宿泊したい小屋になりました。

翌朝、曇り空のお天気を気にしながら出発。周囲は小さな岩が重なり合って岩山が広がっている。仙水峠に着いた時、太陽が昇り始めていて丁度、ご来光を拝むことが出来た。

ここからは登りもきつくなり足元はガレ場の道で歩き辛い。暫くすると早くも息切れが始まる。駒津峰に着くと周囲の展望が開け雄大な甲斐駒ヶ岳が前方に聳えていた。あそこまで登らなくてはと思うと一寸心配になる。休憩の後歩き始めたが、体の動きは鈍く、リーダーの判断で少し下った場所にリュックを置き空荷で山頂を目指すことに。背中が軽くなり少し元気が出る。途中、六方石付近から直登ルートと巻き道ルートの分岐があり、直登ルートを選択した。直登ルートは大きな岩が重なり合ったかなり急な登りとなる。

直登ルートを選択したことを後悔しながらも岩場をよじ登ることに楽しさを覚える。落ちたら終わり緊張して必死に登る。頂上近くまで登った時はバテバテの状態でした。

出発して4時間20分ブレーキになりながらも甲斐駒ヶ岳の山頂に立つことが出来、嬉しさがこみ上げる。天気もかなり回復していて北岳、仙丈ヶ岳を見渡すことが出来た。すぐ下山するのがもったいない気分だったが記念撮影をして早々と頂上を後にする。後で考えるとあの豪快な岩場の直登ルートに登ったことは甲斐駒ヶ岳登山をより印象深いものにしたと思う。下りは滑り易いまき道を注意しながら下った。リュックを置いた場所まで折り返し、アルファ米で作った昼食を摂る。量も多く美味しいようであったが、私は疲労していて食事が喉を通らない。私のバテ方を心配して同行のメンバーが私の荷物を分担して持ってくれることになった。申し訳ないと思いつつもこれ以上ブレーキになってはと思いお願いすることに。少し登って駒津峰に着いたところで残りの荷物も全部持って頂く状態で情けない思いでした。駒津峰からは殆んど下りのため多少歩けるようになる。双児山で休憩後、予定より50分遅れて仙水峠に着いた。本来ならここから仙丈ヶ岳中腹にある馬の背ヒュッテまで登らなければならないが、自分の疲労度を考えて同行者の皆さんには申し訳ないが、私はギブアップしてバスで下山することにしました。残りのメンバーは予定通り馬の背ヒュッテに向けて出発。

【8 / 2 仙丈ヶ岳編】 山本

時刻は13時30分。我々4人は北沢峠で渡邊さんと別れ、再び3時間余をかけて仙丈ヶ岳の馬ノ背ヒュッテまで登る予定。

最初の60分はあまりきつくない登り、これならば予定より早く着くかも、と思いきや、途中からの登りのきついこと。

「たかが仙丈されど仙丈だ。」馬の背ヒュッテに着今朝、仙水小屋を出たのが4時30分。何時間歩



いたのが、16時40分。
いたのか。ちょっと歩行予

馬の背ヒュッテは満杯だ。

次の朝は雲ひとつ無い絶好の天気。5時40分小屋を後にし、仙丈ヶ岳の頂上へ。途中仙丈小屋に寄り一服。

また、仙丈小屋の綺麗なこと。小屋の周りはお花畑。仙丈ヶ岳に登るなら仙丈小屋に泊まるのもよし。と思いつつも頂上へ。頂上から眺める北岳・甲斐駒ヶ岳・間の岳・のこぎり岳・鳳凰三山これぞ疲れも吹っ飛ぶ。

次年は北岳・鳳凰三山に登るのもよし。小仙丈ヶ岳を回り10時30分北沢峠に下山。11時10分の臨時便のバスにて戸台口へ。

山の雄大さを求めるならば「甲斐駒ガ岳」へ、高山植物を楽しみたいならば「仙丈ガ岳」だ。

【甲斐駒ケ岳・仙丈ケ岳山行の写真は写真集のページをご覧ください。】

北アルプス

針ノ木岳・蓮華岳山行（南まわり）

日 程 8月7日（日）～8月10日（月） 【青春キップ利用しました】

参加者 L：山口（博）SL：山本 参加者 石橋、井上、宇高
喜多、坂本、山口（好）渡邊 9名）

針ノ木岳・蓮華岳山行記録

1日目	コース	J R 曾根～明石で合流 ⇒ 名古屋 ⇒ 信濃大町着 ⇒ 扇沢ロッジ着（泊）
	時間	8：31 発～8：52 12：10 着（36） 17：52 着 19：00 着
2日目	コース	扇沢ロッジ発～大沢小屋 ～ 雪渓終点～ 針ノ木峠 ～ 蓮華岳 ～ 針ノ木小屋（泊）
	時間	5：05 発 6：45 着（35） 8：05（10） 11：10 着 13：05（20） 14：20 着（7h）
3日目	コース	針ノ木小屋発 針ノ木岳 ～スバリ岳 ～ 赤沢岳 ～鳴沢岳 ～ 新越山荘着（泊）
	時間	6：00 発 7：05 着（25） 8：35 着（10） 10：50 着（50） 12：40（20） 13：50 着（5h40m）
4日目	コース	新越山荘発～ 岩小屋沢岳～ 種池山荘～《柏原新道》～扇沢出合（タクシー）大町温泉郷着 ⇒ J R 信濃大町 ⇒ 名古屋 ⇒ J R 曾根着
	時間	5：35 発 6：30 着（5） 7：45 着（15） 着 11：30 着（5h） ⇒ 13：00 19：21（9） 23：17 着

★【感想文】 井上

JR を 4 回 乗 り 継 ぎ 1 日 目 の 夜 は 扇 沢 ロ ッ ジ で 明 日 か ら の 登 山 に 乾 杯 。 8 日 の 朝 晴 れ 初 め て の 雪 渓 を 歩 く 。 ア イ ゼ ン を 着 け て い た の で 思 っ た よ り 歩 き や す い 。 こ ま く さ と 雷 鳥 に 出 迎 え ら れ て 蓮 華 岳 往 復 。 9 日 晴 れ ほ と ん ど 霧 に さ え ぎ ら れ る 事 無 く 黒 部 や 雄 大 な 山 々 の 景 色 花 に 満 腹 。 途 中 で 新 越 山 荘 の 人 の 出 迎 え を う け 旅 館 み た い や な あ と 思 っ た 。 針 の 木 小 屋 の 部 屋 で い っ し ょ だ っ た 3 人 と ま た い っ し ょ 。 夜 か ら 雨 が 降 り 出 し 完 全 装 備 で 出 発 。 雷 と 雨 の 洗 礼 を 受 け つ ま ず か な い よ う 滑 ら な い よ う 緊 張 し て 歩 く 。 途 中 怪 我 を し た 男 性 が 背 負 わ れ て 下 山 し て 行 く の を 見 て ま す ま す 緊 張 す る 。 扇 沢 の 駐 車 場 が 見 え て か ら 遠 い 。 お 風 呂 の あ り が た さ を 痛 感 し 4 日 間 の 汗 と 雨 と 思 い 出 で 重 た く な っ た リ ュ ッ ク を 背 負 い 無 事 帰 宅 し ま し た 。

★【感想文】 山本

今 回 の 山 行 は 、 大 雪 渓 登 り か ら 始 ま り 、 「 こ ま く さ 」 の 咲 き 乱 れ る 蓮 華 岳 。 針 の 木 岳 の 頂 上 か ら 、 北 を 見 れ ば 白 馬 ・ 鹿 島 槍 。 西 を 見 れ ば 眼 前 に 立 山 ・ 剣 。 南 に 槍 ・ 穂 高 、 南 西 に 野 口

五郎・水晶・赤牛 360度山々のパノラマ。眼下に広がる黒部湖

これがあるから山登りはやめられぬ。

又反面、気を抜けない、かなりきついガレ場、風雨の中の稜線歩き、今回 強くなかったものの雷の遭遇。

今回の山行は山に登ってこそ味わえる山の楽しさと、自然の厳しさの一片に出くわしたのではないか。

れわれ山を楽しむには常マイナス面も考慮して、無理をせず個人個人が山に向けての学習と体力づくりを綿密に実施し、針の木の頂上から見た山々の雄大を思い出し、計画を練って万全な山行を考えていきたいものだ。

針の木小屋に「山を想えば人恋し、人を想えば山恋し」文人の詠んだ暖簾がありましたなあ。詠んだ文人は誰でしょう。

【針ノ木岳・蓮華岳の写真は写真集のページをご覧ください。】

北アルプス

裏銀座縦走（湯俣～水晶～野口五郎～鳥帽子）

参加者 L：山内 今山 船津 吉井 4名

日程 平成17年8月11日（木）～15日（月）



行動記録（コースタイム・天候・状況など）

平成17年8月11日（木）

20:30 高砂を自家用車で出発 23:05 多賀SA休憩 30分～

平成17年8月12日（金）

01:05 風山SA休憩10分

05:00 梓川 SA休憩20分 04:00 大町市内

04:20 七倉山荘 雷を伴う大雨

夜明けまで仮眠、登山届け提出及び見通し確認。朝食レーション。

06:45 小雨の中出発

07:35 コンクリート道を黙々と歩く、トンネル出口にて休憩10分

- 08:17 高瀬ダム ここからダムの周回路だ。
 10:20 名無避難小屋 昼食レーション 天気快方へ 40分出発。
 11:45 晴嵐荘着(高度2200m) 夕食まで昼寝
 18:00 夕食 雨やまず、ミーテング
 19:00 就寝



平成17年8月13日(土)

- 04:15 起床 小雨模様 川の音が雨と勘違いする。
 04:45 朝食 弁当を小屋で食べ夜明けを待つ。
 05:35 出発
 06:05 展望台 いきなり急登 ○休憩は大体10分前後
 06:55 樹林帯の中(1800M) 急登がつづく
 08:40 湯俣岳山頂 うっかりすると通り過ぎる、雨降り出す。
 09:55 水場にて昼食休憩(20分)赤飯とレーション。
 10:50 南真砂岳ピークここから
 山越えの連続だ。40~50分おきに10分程度の休憩。
 12:15 真砂岳分岐(2600M) 裏銀座縦走コースへ ここから大きな岩場の連続だ。
 13:55 東沢乗越 遙か前方に水晶小屋が見える。
 14:55 水晶小屋着。ガスで何も見えない。うわさ通りの小さな小屋だ。付近を散策。気温9.5度
 17:00~35 夕食 カレー 味噌汁 野菜サラダ お代わりあり
 18:00 就寝



平成17年8月14日(日)

- 04:30 霧雨模様 小屋のリュック置き場で弁当を食べる、空身で水晶岳頂上へ向かう。
 05:30 頂上着 視界ゼロ 東京の2人女性パーティと記念撮影
 06:00 小屋着 昼の味噌汁を作ったり出発準備
 06:55 出発 ガスつて何も見えない。
 07:30 東沢乗越 天気快方へ カップ脱ぐ 岩礁の道 疲れる。
 08:35 真砂分岐手前 休憩 10分
 09:35 野口五郎岳山頂 ガスの切れ目より槍ガ岳が見える。
 10:00 野口小屋着 昼食混ぜご飯
 12:25 三ツ岳(2844M)
 13:10 烏帽子小屋着 三ツ岳~烏帽子間写真を撮ったり休憩を挟み楽な山歩きだった。夕食までの時間はひたすら眠った。
 17:00 夕食

平成17年8月13日

- 04:30 起床 今日雨

05:00	食堂にて弁当を食べる 烏帽子岳登頂を断念する。
06:25	出発
06:40	前烏帽子岳着 何も見えない 写真のみ ブナ立尾根を下山
07:40	タヌキ岩 カップ脱ぐ 休憩
08:30	急登の樹林帯
09:20	登山口
09:40	濁沢を渡渉 靴を脱いだので足が痛い〜つり橋〜トンネル
10:10	高瀬ダム休憩所着 昼食
11:00	出発
12:00	七倉荘着 大町にて入浴休憩
14:00	大町発

今回の山行は4日間とも雨にたたられたが何とか予定のコースをクリアーできた。晴嵐荘～真砂岳の竹村新道の登りそこから岩場をとおり水晶小屋まで長くきつかった。残念だったのは荒天のため烏帽子岳に登れなかったこと。反省点は小屋泊まりにもかかわらず不要な荷物を持ちすぎた。濁沢の渡渉時靴を脱いで渡ったため足を痛めた。基本的なザイルの使用方法のマスターが充分でなかった事です。これを糧にして次回の山行にいかして行きたいと思います。

今山正雄

【裏銀座縦走山行の写真は写真集のページをご覧ください。】

日帰り山行編

● 六甲・ロックガーデン～有馬（日帰り山行）

参加者 L：砂川延 今山 貝塚文 貝塚陽 金島 西村 長谷川 榎賀 待場 山本正渡邊
 （一般参加・大橋 小谷） 計 13名

日 程 平成17年8月11日（木）～15日（月）小雨のち晴れ

行 程 阪急芦屋川～地獄谷～かえる岩～風吹岩～雨ガ峠～黒岩尾根～一軒茶屋～
 魚屋道を有馬へ

08:10	出発 天気 曇り 蒸し暑い
08:40	地獄谷取付き点、 休憩 ボッカ用の石をザックに入れる
09:15	かえる岩 休憩 沢の岩登りの連続
10:15	谷筋を抜けピラーロック着 休憩 神戸市街がよく見える
10:35	風吹岩着（447M）休憩
11:22	ゴルフ場横の水場 休憩 とにかく暑い
11:45	雨ガ峠 休憩 昼食
12:10	出発 途中尾根道探す(30分)
13:08	黒岩尾根入り口

13:34	尾根中間点	休憩	雨ポツリ	結構ハードな行程だ
14:10	一軒茶屋	休憩	ビールで乾杯する人も	記念撮影
14:26	出発	魚屋道を有馬へ	後発隊は近道コース	
15:40	有馬稻荷(10分)			
15:50	入浴	銀の湯		
17:00	神鉄有馬温泉駅	解散		



★【感想文】 金島

前日の天気予報では雨 30 パーセントと聞いていた。午前 8 時阪急芦屋川についたときには今にも泣き出しそうな曇り空、今日もまた雨に降られるか……。六甲系芦屋川からロックガーデン地獄谷を經由して雨ヶ峠を越えて有馬に下るのが本日のコース。もちろん私にとっては初めての六甲超え有馬行きである。

前回雨にたたられながら風吹岩手前から引き返したことも数に入れて 2 度目の挑戦となる。前回と同様に沢を登っていく。砂川リーダーの手足の置き場所を見逃さないようにしながら懸垂岩の名前のごとく腕に力をためて登っていく。水の中につきりながらも 1 枚岩を 4 つんばいになって這って歩く。夏山登山教室に申し込んだときはここまでハードとは思っていなかったな……。谷の中は落ち葉の腐食した臭い？それともミズゴケか、なんとも灰汁の強い湿った臭気ではあるが 2 ヶ月前にトレーニングしたときの空気を思い出し少しほっとした気分。 沢を抜けて

からは急登を一步一步ゆっくりと登っていく。よく見ると落ち葉の間からきのこのぞいている。傘の裏まで茶色くて毒々しいけれど、きのこが生えているのを見たのは本当に久しぶり。真っ白のきのこも生えてまさしく「小さい秋見つけた」。芦屋川駅前ではたくさんのハイカーを見かけたのにここまで 2~3 組位出会っただけで山の中ではほとんど人に会わない。風吹岩へは 2 度目とは言え急登は苦しく私はまだまだ楽しむ段階に達していない。曇り空に蒸し暑さも手伝って汗は流れっぱなし、頭も汗びっしょりで帽子も脱いで歩くことにする。しかし、背中の中のザックは今回そんなに重たく感じない。有馬へ下って温泉に浸って帰る予定なので一揃えの着替えと水 2.5 リットル、使わないけれど新品のカップ上下、ヤッケ、弁当 諸口をつめたザックはそんなに苦ではなかった。この教室に入ってから毎朝、私は水を入れたザックを背負って 1 時間歩く訓練をはじめている。水 2 リットルからはじめ、今は 8 リットルの水を背負い朝の散歩をしていることが今日の山歩きに効を奏したかザックに負担を感じることはなく、頭に汗をかくことと背中の重りに少し耐えられるようになってきている。私にとっては相当な成長かもわからない。やがて山のてっぺんにたどり着き神戸の町や港を一望するところまで登った。やっと、ここで一休み。どこから登ってきたのかここにはたくさんのハイカーがいる。不思議。電車がマッチ箱くらいに見える。外国船かもわからない大きな船も停泊している。また、歩き始める。ここからしばらくは道も広くなり歩きやすい。水道設備のある場所では空になった水筒に水を満たして今日の昼食場所である雨ヶ峠を目指した。高い木上で鳥が盛んに鳴いているけれど何鳥なのかわからない。芦屋川から歩く事 3 時間 40 分午前 11 時 40 分に雨ヶ峠に着いた。ここで昼食。先客の中には相当年

配のご夫婦にもお会いした。人気の山であることを感じる。山と山の間から神戸の港が見える。たっぷりと昼食を楽しみ12時10分私たちは有馬への行程を開始した。ここからは柘賀さんの先導である。30分くらい進んだ頃からとうとう雨がぽつぽつ降ってきた。木々は生い茂り山の中全体が暗い。新しい道に行くことになりまた急登が始まった。狭い岩の間を登る。全身全霊を歩くことに集中し柘賀さんの後を追う。山の表面に茂っている熊笹は道を隠してしまう。雨も降りだして心細くなる。歩くこと1時間、目の前にお城のような石垣が見えてきた。柘賀さんの「一軒茶屋に着いたぞ」の言葉になんと嬉しかったか。民家のある場所がこんなに嬉しいとは。アリマロードを抜けていくドライバーに目をやりながらザックを下ろし、たっぷり水を飲み休憩と写真撮影。これからの行程は有馬へ一直線に抜ける魚屋道と言う。ゴロゴロ石の下り道をおしゃべりしながら下りる。いつも一緒の待場さんが逝ってしまわれたご主人を思い「この道は主人と歩いた懐かしい道や」の一言に胸が熱くなり私は泣いてしまいそう。いつの間にか雨は上がり青空が見えている。木漏れ日がやわらかくとても気持ち良い。雑木林のこの道は本当に楽しかった。下り坂でピッチを上げてどンドン下りる。夕食の献立など考えながら下りる。途中、マウンテンバイクを操り器用に坂を下りる子供にも出会った。40分ほどで、ふもと有馬温泉に3時30分到着した。六甲山を経由して有馬温泉まで歩くとは・・・。今までの私には考えられない今日の1日であった。銀の湯で汗を流し帰りの電車に乗った時にはもはや夢心地、高砂駅までぐっすりと眠り込んでしまった。 完

【六甲・ロックガーデン～有馬山行の写真は写真集のページをご覧ください。】

お知らせ

兵庫労山事務局よりスズメ蜂についての下記情報が寄せられましたので十分注意をしてください。(9月21日付)

六甲ハイクより、芦屋ゴルフ橋から荒地山に入るところに
すずめ蜂の巣があるので十分注意して下さいという情報は寄せられましたのでお知らせします。

六甲山の八幡谷最深部の堰堤にも大きなすずめ蜂の巣がありますので、付近を通られるさいには十分注意願います。

前記以外にも登山道の立ち木・橋・小屋・堰堤などにすずめ蜂が巣を作り易い所を通過するさいは十分注意願います。

すずめ蜂や登山コースの危険箇所等の情報がありましたら県連までお知らせ願います。

兵庫労山事務局